

電波資源拡大のための研究開発 平成23年度事前評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
ホワイトスペースにおける新たなブロードバンドアクセスの実現に向けた周波数高度利用技術の研究開発	H23～25	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数ひっ迫の折から、必要性は十分認められ、また国際競争力確保の点からも有益な研究開発である。 ・開発しようとする目的に関しては異論はなく、リアルタイムセンシング技術、動的周波数管理技術、ダイナミックスペクトルアクセス技術の検討内容は妥当であり、今後重要な技術となり得る。 ・これまでの開発技術との差異をより明確化する必要があるが、実施体制、期間ともに妥当である。 	4.1
79GHz帯レーダーシステムの高度化に関する研究開発	H23～25	<ul style="list-style-type: none"> ・高い周波数の有効利用を考えるために必要な研究開発であり、技術の妥当性も担保されている。 ・79GHz帯レーダーには安心安全の確保の面からの魅力があり、また、国際競争力確保の立場からも研究開発すべき状況にある。 ・広帯域化したミリ波レーダーは要素技術として重要であり、より広範な応用システムも検討すること。 	3.9
電波環境適応レーダーの研究開発	H23～25	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑海域においても十分な数のレーダーの動作を保証する技術開発を行うもので、必要性は高く、周波数の有効利用に資するものである。 ・性能向上とともにコストの上昇を最小限にとどめるよう配慮した研究開発とする必要がある。 ・何を持って実用に供せるものができたとするのか、具体的数値目標を明確にしておくべき、あるいは、まずはそこから検討すべきである。 	3.9
100GHz超帯域無線信号の高精度測定技術の研究開発	H23～26	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国が技術立国として生きるためには、新たなシステムの開発などに繋がる測定器の研究開発は極めて重要である。 ・今後利用が進むミリ波帯の有効利用、周波数ひっ迫対策に有益な研究開発であり、技術的側面から世界をリードできる環境にあることから期待が寄せられる。 ・測定器の普及のためにも、小型化や極端に高価にならないように努力する必要がある。 	3.7
超高周波搬送波による数十ギガビット無線技術の研究開発	H23～27	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発の必要性は極めて大きく、対象とする技術、実施体制も妥当に計画されている。 ・技術的にチャレンジングであるが、研究開発のトレンドとしては突破すべきターゲットの一つであり、世界に先駆けて技術を確保することが望まれていることから、国がリードすべき研究開発である。 ・研究目標などは良く精査して実用的で主流となるよう条件設定が必要である。 	3.6
動的偏波・周波数制御による衛星通信の大容量化技術の研究開発	H23～26	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数有効利用の観点で電波利用料研究開発のテーマとして適している。 ・衛星中継器の利用を増加させるために必要な技術であり、従来と比べ1.5倍の周波数有効利用を図ることは評価できる。 ・何を持って技術が出来たとするのか、目標を数値化してターゲットを明確にするとともに、予算額・開発期間を精査する必要がある。 	3.5